

委員会委員名/現在の肩書/履歴等

Lee Hamilton 共同議長 リー・ハミルトン	<ul style="list-style-type: none"> 現職：Woodrow Wilson 研究所国際センター所長、大統領情報諮問委員会及び国土安全諮問委員会メンバー 1965年～1999年まで34年間下院議員(民主、インディアナ州)を務めその間、下院外交委員会委員長や下院情報問題特別調査委員会委員長を歴任 2008年大統領選挙ではオバマ現大統領を支持
Brent Scowcroft 共同議長 ブレント・スコウクロフト	<ul style="list-style-type: none"> 現職：Scowcroft グループ(国際ビジネスのコンサルタント会社)代表、米国戦略・国際問題研究所(CSIS)アドバイザー兼役員 陸軍士官学校出身、米国空軍中將を経て軍事アシスタント(ニクソン大統領)、国家安全保障担当大統領補佐官(フォード、ブッシュ(父)政権時)、大統領外交諮問委員会委員長(ブッシュ(子)政権時)等を歴任 フォード政権末期の核不拡散/原子力政策の基礎となったフライ報告の検討グループの一人 82～89年までキッシンジャー・アソシエーツの副会長を務める。
Mark Ayers マーク・エイヤーズ	<ul style="list-style-type: none"> 現職：アメリカ労働総同盟-産業別組合会議(AFL-CIO)建設事業部門代表、NEI 役員会メンバー
Vicky Bailey ヴィッキー・ベイリー	<ul style="list-style-type: none"> 元連邦エネルギー規制委員会委員、元DOE政策・国際問題担当次官補(ブッシュ(子)政権時)、元インディアナ州公益事業委員会理事
Albert Carnesale アルバート・カーネセール	<ul style="list-style-type: none"> 現職：カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)名誉学長/教授。原子力工学博士 70-72年(ニクソン政権)、SALT-I交渉の米国側代表団メンバー カーター大統領に再処理凍結と高速炉の開発延期を勧告、同大統領の原子力政策の基礎となったフォード・マイター報告書の作成者の一人。またカーター大統領のイニシアティブに基づき実施された国際核燃料サイクル評価(INFCE、77-80年)では米国代表団の団長を務める
Pete V. Domenici ピート・ドメニチ	<ul style="list-style-type: none"> 現職：超党派政策センター(Bipartisan Policy Center(BPC))代表 73～09年まで上院議員(共和、ニューメキシコ)、予算委員長、エネルギー・天然資源委員長、歳出委員会エネルギー・水開発小委員会委員長等を歴任。 長年の原子力推進派でGNEPを推進 2010年12月に開催されたナショナルプレスクラブでの会議で、YMを置き去り(leave out)、より建設的な政策に転換するため、放射性廃棄物基金の230億ドルを使用済燃料リサイクルのためのパイロット・プロジェクトに利用すべき旨を言及
Susan Eisenhower スーザン・アイゼンハワー	<ul style="list-style-type: none"> アイゼンハワー元大統領の孫でアイゼンハワーグループ代表、現在、カーネギー国際平和財団理事、NTI理事 米露関係及び安全保障専門家。2000年にBaker-Cutler Commission(露国における米国核不拡散プログラムの評価を行うDOEの有識者タスクフォース)に参加
Chuck Hagel チャック・ヘーゲル	<ul style="list-style-type: none"> 現職：アトランティック・カウンシル議長。ジョージタウン大学Practice of National Governance 特任教授、国防省の防衛政策協議会メンバー 元上院議員(共和、ネブラスカ) レーガン大統領選挙戦を組織し、同政権下で退役軍人庁副長官 07年に、当時上院議員だったオバマ現大統領と共同で核軍縮法案を上院に提出。オバマ大統領の親友と言われる ヘーゲル氏は、2008年12月に設立された核廃絶運動「グローバル・ゼロ」の立役者の一人で、オバマ大統領のブラハ演説(09年4月)前に大統領に書簡を送付、核兵器廃絶を促した。グローバル・ゼロはカーターやゴルバチョフ元大統領を始め、各国の指導的な人物が参加しており、ヘーゲル氏を共同議長とする国際委員会を組織し、09年6月末、2030年までに核廃絶を実現する4段階のロードマップを発表。
Jonathan Lash ジョナサン・ラッシュ	<ul style="list-style-type: none"> 現職：World Resources Institute(環境問題のシンクタンク)代表 気候変動、資源、環境問題専門家 93-99年、クリントン政権下でCouncil on Sustainable Developmentの共同議長を務める
Allison Macfarlane アリソン・マックファーレン	<ul style="list-style-type: none"> MITのProgram in Science, Technology, and Societyの研究助手を経て、現在、ジョージメイソン大学環境科学・政策専攻准教授 08年の全米科学アカデミー(NAS)学術研究会議(NRC)によるDOE原子力局のGNEP等の評価に参加、少数意見として、商業再処理と核燃料サイクルはエネルギー資源と核拡散問題の解決にはならず、GNEPとDOEの研究開発予算をAFCI以前のレベルに戻すべきこと、DOEは初期の研究レベルを超えて当該技術を開発すべきではないことを主張した。また、同年に開催されたカーネギー財団の会議でも、GNEPでは、放射性廃棄物処分場の必要性を解決せず、高速炉は建設に巨額の費用を要し、かつプルトニウム盗取の障壁にならないことを言及。 著書に“Uncertainty Underground: Yucca Mountain and the Nation’s High-Level Nuclear Waste“(The MIT Press)等がある
Richard Meserve リチャード・メザーブ	<ul style="list-style-type: none"> 現職：カーネギー研究所長。IAEAの国際原子力安全諮問グループ(INSAG)議長 元NRC委員長(クリントン政権及びブッシュ政権初期時) 77-81年(カーター政権)大統領科学技術アドバイザー付法律顧問
Ernie Moniz アーネスト・モニツ	<ul style="list-style-type: none"> 現職：MIT物理学教授 95-97年(フォード政権)に大統領府科学技術政策室(OSTP)副室長、97-2001(カーター政権)年にDOE次官を歴任 ワンスルーオプションに大きな優位性があると結論したMIT調査報告書(<i>The Future of Nuclear Power</i>、2003年)の中心的著者
Per Peterson パー・ピーターソン	<ul style="list-style-type: none"> 現職：カリフォルニア大学バークレー校教授兼原子力工学部長 2002年Gen. IVロードマップ作成に参加 08年の全米科学アカデミー(NAS)学術研究会議(NRC)によるDOE原子力局のGNEP等の評価に参加する等、国立研究所に対する諮問委員会メンバー等を歴任 第4世代原子炉につき長期研究開発計画を策定する原子力エネルギー研究諮問委員会(NERAC)の下に設置された民生用原子力利用の核拡散抵抗性向上のための技術可能性(TOPS)タスクフォースのメンバー。
John Rowe ジョン・ロウ	<ul style="list-style-type: none"> 現職：Exelon会長兼CEO NEI会長、エジソン電気協会会長を歴任
Phil Sharp フィリップ・シャープ	<ul style="list-style-type: none"> 現職：Resources for the Future(RFF)代表。RFFは52年設立のエネルギー/環境/天然資源に関する政治分析を行うワシントン最古のシンクタンクで/国内外からの寄付約7千万ドル、/80名以上からなる。 元下院議員(75-95年、民主、インディアナ)。90年の大気浄化法の全面改正や92年エネルギー政策法の立役者(ブッシュ(父)政権時)。下院エネルギー商業委員会のエネルギー電力小委員会議長、エネルギー環境小委員会及び水資源小委員会のメンバー等を歴任。 下院議員引退後、95-2001年：ハーバード大学ケネディスクール公共政策講師、95-98年/04-05年：同スクール政治研究所所長